

大阪市立鯉江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 本年度の学習理解度到達診断において、平均正答率を昨年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童の割合を50%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、国語・算数の授業の内容が「あまりわからない」「わからない」と回答する児童を昨年度より減少させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>④ 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を昨年度より向上させる。(マネジメント改革関連)</p> <p>⑤ 本年度末の学校生活アンケート調査で、次の各項目について、肯定的な回答の割合を平成25年度より増加させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読むのが好き。 ・家でよく読書をする。 <p>(カリキュラム改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【習熟度別少人数授業の充実】</p> <p>習熟度別少人数授業などの学習形態を工夫して、基礎・基本の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 ○習熟度別少人数授業を年間計画にそって実施する。</p> <p>○「習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実にかかる事業」状況調査（後期実施分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの正答率の分布の2極化傾向を前年度より減少させる。 ・意識調査で国語・算数の授業が「分かる」と答える児童を前期より増やす。 	
<p>取組内容②【言語力や論理的思考力の育成】</p> <p>各教科を通して、読書量を増やすとともに、言語活動の充実を図る。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 ○読書ノートを活用し、目標とする年間読書量を超える児童を半数以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年：80冊 高学年：30冊 <p>○ワークシートやノートに次のような記述内容が書ける児童を半数以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてをとらえた意見を書いている。 ・理由づけをして書いている。 	
<p>取組内容③【特別支援教育の充実】</p> <p>学級担任と特別支援学級担任が連携して「個別の支援計画」を策定するとともに、指導を通して「個別の指導計画」を児童一人一人の実態に合うように更新する。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 「個別の指導計画」を年3回見直す。</p>	

取組内容④【 授業研究を伴う校内研修の充実 】 全学年で授業研究を実施し、指導力の向上に取り組む。 (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)	A
指標 年間 19 回以上実施する。	
取組内容⑤【 校内研修の充実 】 読書活動を充実させるための研修会を行うようにする。 (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)	B
指標 研修会を 1 回以上行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【習熟度別少人数授業の充実】 多くの単元や、「ひとりまなび」などで、国語・算数共に習熟度別少人数授業を計画的に行うことができた。それにより基礎基本の定着を図ることができた。また、国語が「あまりわからない・わからない」と答える児童の割合が昨年度は 8.3%, 今年度は 7.3%, 算数では昨年度は 8.9%, 今年度は 7.3% となり両方とも少なくなっている。保護者アンケートの「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合は、昨年度は 91.6%, 今年度は 94.8% となり向上させることができた。	
取組内容②【言語力や論理的思考力の育成】 公立図書館の団体貸出し、読み聞かせ、読書ノートの活用、国語の第 3 次での読書につながる活動などにより、読書量が増えてきている。学校生活アンケートで「家でよく読書をする」の肯定的な回答の割合は昨年度は 62.8% で今年度は 63.2% でわずかに増加した。こちらが声掛けすれば理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童の割合は 50% 以上にはなっているが、すすんで理由づけできる児童はまだ少ない。	
取組内容③【特別支援教育の充実】 「個別の支援計画」は年度途中で在籍した児童分も保護者の同意を得た確実なものを作成できている。「個別の指導計画」は学級担任・特別支援学担任で話し合いの場を設定することで、児童の実態に合ったものを作成・更新できている。児童の成長や課題を見つめ直す良い機会となっている。	
取組内容④【授業研究を伴う校内研修の充実】 全学年による研究授業や全員授業も実施したので、年間 19 回以上の研究授業を行うという目標は達成できた。研究授業の後は、討議会を開くことにより、教員全体の研修がさらに深まり、指導力の向上につながっている。	
取組内容⑤【校内研修の充実】 読み聞かせやブックトーク、アニメーションなどの読書活動を充実させるための研修会を計画的に実施した結果、毎月の教員による読み聞かせ活動が充実している。しかし、学校アンケートでは、「本を読んでもらうことは好き」と答える児童が高学年になると 5 割を下回る結果となった。また、「国語の授業がきっかけでほかの本を読んでみようと思った」と答える児童の割合は、10 月は 53.7% だったが、1 月は 60.3% に増えていた。	
次年度への改善点	
① 教科書改訂により、習熟度別少人数指導の計画（「ひとりまなび」の計画など）を新しく変更し、さらなる定着を図れるように工夫・改善していく。 ② 家庭での読書を推進するために、家庭への啓発など工夫していく。「本をよく読む」項目で、「思わない」と答える児童が 12.3% いるので、不読児にどう対応するか考えていく。すすんで理由づけができる児童の割合が増えるよう、理由づけをして意見を述べたり書いたりできる場を増やしていく。 ③ 次年度も学級担任・特別支援学級担任とで話し合いの場を設定し、情報を共有できる環境をさらに整えていく。 ④ 次年度も計画的に行っていくようにする。 ⑤ 読み聞かせのあり方を検討し、学年に応じた本をさらに選ぶことができるようにする。	